

2013年6月3日

報道各位

住友金属鉱山株式会社

### ニッケル鉱石中の鉄分資源化技術の開発について

住友金属鉱山株式会社（本社：東京都港区、社長：家守伸正）は、フィリピン共和国において HPAL\*1 法によりニッケル・コバルト混合硫化物\*2 を生産していますが、HPAL 法で発生する残渣中には鉄がヘマタイト\*3 として存在します。その鉄品位は概ね 30～40% と低いいため鉄鋼原料としては使用できず、埋め立て処理しています。

このたび当社では、HPAL 法でニッケルおよびコバルト分を浸出・回収した後の工程を見直すことにより、残渣の鉄品位を一般的な鉄鉱石と同等の 60%程度まで引き上げることに成功いたしました。

本技術が実用化されれば、資源の有効活用が図れるのみならず、埋め立て処理量の削減にも大きく寄与することができます。当社は、2013年秋に当社子会社である **Taganito HPAL Nickel Corporation**（本社：フィリピン共和国マカティ市、社長：藤村隆則、出資比率：当社62.5%、Nickel Asia Corporation22.5%、三井物産 15% 以下「THPAL」）において、HPAL法によるニッケル・コバルト混合硫化物の生産工場を稼働させる予定です。当社は、THPALで本技術を用いたパイロットプラント建設を計画しており、今後実用化に向けて検討を進めてまいります。

当社は、HPAL 技術により低品位ニッケル鉱石からのニッケル・コバルト生産商業化を世界で初めて成功させましたが、さらに資源の有効活用に向け鉱石・残渣からの有価金属の回収に取り組んでいます。すでに HPAL 技術によりニッケル・コバルト混合硫化物の生産を行っている **Coral Bay Nickel Corporation**（所在地：フィリピン共和国パラワン島、社長：藤村隆則）ではスカンジウム、クロム回収のパイロットプラント建設を進めています。鉄分資源化は、これらと合わせて2012年中期経営計画の主要戦略である「回収金属の拡大」による資源の有効活用を推し進めるものとして期待されます。

\*1 HPAL：High Pressure Acid Leach 高圧硫酸浸出

\*2 ニッケル・コバルト混合硫化物：電気ニッケル等を製造するためのニッケル、コバルトを含有する中間製品。全量が当社ニッケル工場（愛媛県新居浜市）にて処理され、電気ニッケルおよび電気コバルトに製品化される。

\*3 ヘマタイト：Hematite 赤鉄鉱のこと。化学組成は  $\text{Fe}_2\text{O}_3$ 。主な使用用途は鉄鋼原料。

（本件に関するお問い合わせ先）

住友金属鉱山株式会社

広報IR部 高橋雅史

TEL：03-3436-7705

FAX：03-3434-2215